

ヤマユリ通信 Vol.5-3

植栽号

麻生区地域課題対応事業 麻生ヤマユリ植栽普及会 H25. 12. 27 発行

◆もくじ◆

- 鉢植え講習会：今年もヤマユリの鉢植えを楽しみました。・・・1
- 植栽地秋から冬へ：麻生区の花、'13 ヤマユリ再生保全活動の現場から・・・2、3
王禅寺地区／麻生市民館裏／岡上／梨子ノ木緑地／万福寺おやしる公園
- ヤマユリ植栽：球根の植え替えに挑戦！・・・4
- そうなんだ 問答：ヤマユリの木子は、どの株にもできる？・・・4



▲講義：ヤマユリの特徴、鉢の仕立て方や管理の仕方



▲実習：菊8号鉢に軽石(約1ℓ)、軽石と赤玉土の混合土(約1ℓ)を入れ、赤玉土少々、真ん中に球根を置き赤玉土(約2ℓ)で覆う、さらに赤玉と腐葉土の混合土(約2ℓ)入れて完成。

うちなびく繁みが下のさゆり葉の
しらねほどこにかよふ秋風

続古今集(詞書略) 藤原定家

今年もヤマユリの鉢植えを
楽しみました！

去る11月20日午後、区民のみなさまと区役所を会場にヤマユリの鉢植え11回目の講習会を行いました。

冷たい晩秋の風の吹く中、講義と実習に頑張りました。参加者は、数人を除いてほとんどが初体験。

毎回のように参加者に驚きを与えるのは、①種から開花まで5年もかかること②根が上根と下根の二種類あること③東南の半日陰の場所、水はけの良い肥料分の少ない痩せた土で育つこと。④今ひとつ、ユリの歴史についてです。日本の原種ユリは15種で他国のものに比べその美しさは秀でていること。そして明治の初期から昭和の中期まで輸出して外貨を稼いでいたが、今や反対に世界生産のユリ(ハイブリッド種)の30%以上を輸入しているとのこと。

とりわけ講習会で使った球根は、我が国原種で種から7～8年育成したものです。“来年7月初旬には、3～4の大輪の花を付ける”とお話すると、参加者の目が一瞬輝いたように見えました。

ところで、ヤマユリの球根は、普通、1球千円前後するものもあり高価ですが、最近、園芸ショップで格安で売られています。これは日本原種ではないようです。カサブランカなどと同じ輸入品で、花の形も立ち姿も全く異なります。ご注意ください。

再生保全活動の現場から



平成25年も暮れ、今年の緑地での植栽活動は、終了しました。夏7月の開花期を山場に、秋が深まるとともに植栽地の蒔も色づき実り、眠りを迎えます。この休眠期に行うのが、球根の植え付け作業です。これまで試行錯誤をし

ながら、少しずつ植栽地を拡げてきました。現在、王禅寺地区に3か所、万福寺地区に2か所、岡上地区に1か所。本号では、これらの地区責任者から今期後半の取り組みについて、レポートしてもらいました。

王禅寺地区

今年も植栽活動を終え、日々移ろいの速さを感じます。

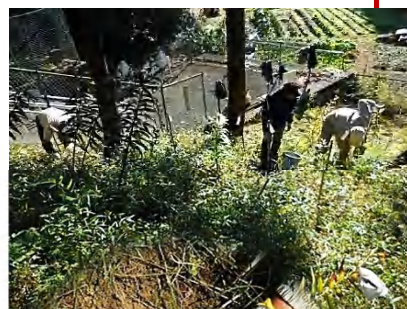
◆植栽地の後期活動

植栽地のヤマユリの開花が7月中に終わり、当会も酷暑の8月は夏休み、植栽活動の休業月です。そして9月、例年通り、作業を再始動します。

まず、植栽地の下草刈りやツルの除去などの整備を、11月の球根の植え付けまでに計画的に進めます。そして忘れてならないのは、残暑の9月、蒔の袋掛けです。病害虫被害のない、ふっくらした良く実った蒔選びが大切で、ひとつひとつ丁寧にを行います。12月中旬、蒔を収穫して乾燥・種の選別、殺菌・乾燥して種まきに備えます。一方、9月初旬には、植え付け用の球根（原種ヤマユリ）を何球仕



▲蒔の袋掛け
(9月下麻生まつのき緑地)



▲球根の植え付け
(11月王禅寺すぎのき緑地)

入れるかを、昨年の実績を踏まえて決めます。

◆今年は35球植え付け

10月に入り、球根の植え付けのための植栽地の整備を本格的に進めました。

整備は、下草刈りだけではありせん。これまでのヤマユリの生育状況を調べ、支柱のみでヤマユリの株がなくなつた場所を掘り起こして状況確認します。さらに、ヤマユリの大敵のつる草「カラスウリ」の球根と「クズ」の根の駆除を、今年も進めました。

10月中、整備の終了後およびその植え付け場所を決め、仮の竹支柱を立てて置きます。

* * *

11月になりました。まず「王禅寺のすぎのき緑地」から植え付け作業を開始。強風で散つた杉の枯



▲沢蟹を見つけた！
(9月王禅寺すぎのき緑地)

れ枝を取り除きながら15球を植え付けました。穴掘り、球根の植え付け、支柱のラベル付けと分担作業で手際良く行う。植え付けた年がわかるように、支柱に識別ひもを付けました。小休止してから、徒歩10分ほどの「下麻生のまつのき緑地」に移

動。この緑地では15球を3つの斜面に分けて植え付けました。竹藪の下、南斜面は、土壌が特に固く、穴掘りには毎年閉口しています。また、場所によつては急斜面が有るため慎重に作業を行いました。

最後は「王禅寺公園」の植栽地です。ここは、昨年から始めた植栽地で、南西向きの斜面の空きスペースを探しながら5球を植え付け、この日の作業を終えました。今年は、住宅地に近

麻生市民館裏

い植栽地で珍しい生きものを見つけました。9月中旬、王禅寺のすぎのき緑地で、つる草の駆除作業していた時のことです。枯れ葉の下から2匹の沢蟹が

種から4年目、やっと咲きました！

“身近なところで観てほしい”との願いで、市民館裏の空き地を植栽地として拓いてから4年。今年7月初め、やっと10本程の開花を見ました。

種から育成したため、まだ球根が小さく、茎1本に花1輪とささやかですが、でも芳しい香りを一帯に漂わせ、大輪の花を愛でることができました。来年は球根も段々と大きくなり、2輪3輪と華やかになって、皆

さんの目を楽しませてくれることと思います。ここは半日蔭となる日差しを遮る木が無く、諸条件がヤマユリには過酷かもしれない場所です。特に図書館上側は、春から秋までツタの根やつる草取りとの格闘でした。今年も12月初旬に、メンバーが種から育てた小球根を、40球ほど植え付けました。上手に根付いて来夏には開花するよう、作業を進めていくつもりです。

(島田由江・記)

出てきました。この緑地の斜面上側に僅かに湧き水があるようで、まだ、まだ自然の生態が残っているようです。(山田栄二・記)



▲ひと株に一輪ずつ10本咲きました。



2013/12/09 09:49

▲鉢植えて育てた小球根の移植。

植栽地、秋から冬へ

麻生区の花

'13 ヤマユリ

岡上・梨子ノ木緑地から

今年も25球、無事植栽が終了しました。

11月10日(日)、さしもの雑草も勢いを失った梨子ノ木緑地に、例年通りヤマユリの球根を植え付けました。今年も、猛暑・日照り・豪雨そして台風と、人間にとつては厳しい気候が続きましたが、ここ梨子ノ木では、ヤマユリの当たり年だったようで、優に1000本を超える花が咲き乱れ、訪問者の目を楽しませてくれました。生物つて不思議なものですねえ。(※開花の様子には前号『ヤマユリ通信開花号』にて既報。見逃された方は、麻生区役所HPでご高覧ください)

* * *

を植え付けるか目星を付けます。すでにある株を考慮しながら、これまで手薄だった北側を重点的に攻めることにしました。目印のさらし竹を立て、その下の枯草を除去してから深さ20cm位の穴を掘ります。持参の赤玉土を2〜3cmすき込み、その上に球根を置きます。さらに掘り起こした土を半分ほど埋め戻してから、ベンレート500倍液をたっぷり注ぎ込みます。

最後に残りの土をこもりと盛り上げ、植え付けを終了。

この日の植栽には、我々会員だけでなく、地元ボランティアの方3人(阿閉さん、五十嵐さん、村田さん)も参加してくれました。ともすれば、開花期だけのお手伝いというケースが多い中、ヤマユリの新年事始めともいえる、

植え付けからお付き合いたいだけなのはありがたいことです。というのも、この後に続く除草・防除・開花・蒔の採取という一連の作業を通してはじめて、何物にも代えがたい美しさを実感していただけだと思うからです。ともあれ、来年7月にこのうち何株が開花してくれるだろうかという期待(不安)しながら作業を終えました。

一か月後の12月8日、植栽場所の確認。昨年のように何物かによつて掘り返されていた形跡もなく、会員一同ひと安心でした。

同日、地元・かわさき自然と共生の会の恒例の催事「芋煮会」に出席し、お世話になっている鎌谷会長や加藤理事ほかの方々に、来年のさらなる連帯をお願いして、平成25年の緑地作業を終了しました。(高橋雄介・記)

万福寺おやしる公園から

◆今年も蒔の採取量が最悪!

七月、ヤマユリの開花散策を楽しんだつかの間、八月に台風が直撃! 蒔をつけたヤマユリが根元より多数折れてしまい、種の収穫減が懸念されました。

そして九月、例年のように種を少しでも多く採取するため、蒔を害虫からの保護と種の飛散予防の袋掛け作業を行いました。

夏の猛暑、そして雨の少なさが影響してか、蒔の生長が芳しくなく、また台風の影響などで、例年30袋以上は掛けましたが、今年は、12袋に留まりました。袋掛けしても安心はできません。晩秋のからっ風で袋が飛ばされることあり、蒔の中の種が四散し

てしまい、収穫がさらに減る可能性があるからです。

◆初めて地域の子ども達と楽しい球根植えができました!

11月24日、新百合山手公園運営管理協議会のボランティア活動「グリーンフレンドフェア」に合わせ、球根の植え付けを行いました。

植栽活動が続けて7年。今年初めてうれしい参加者を迎えました。ボランティア参加の親子連れで

“ヤマユリの球根植え始めます!”と声を掛けると“やりたい!”と元気な園児が、夢中なつて植え付けを手伝ってくれました。今年の植え付け球根は、20球。まず、日当たりと水はけのよさそうな

場所を選定して、20箇所を目印の支柱を立て、その後、参加者全員で穴掘りを進めます。

その後は、2、3人のグループで球根の植え付け作業を進めます。

病害虫予防のために、穴の底に少量の赤玉土を敷き、その上に球根の根を広げて置き、赤玉土を掛けて、さらに掘り起こした土も埋戻し、その上から液状殺菌剤を散布しました。

昨年までに植え付けたものと、区別できるように支柱に名札と赤い目印を付けました。

12月には蒔の採取。その種を発芽させて植栽地に戻すことができれば、ヤマユリの自生地再生も早まることでしょう。(福井捷介・記)



▲まずは手分けして穴掘り作業



▲急斜面での球根植え付け作業



▲薬剤散布

▲球根の根を拡げて



▲植栽地全体の下草刈り作業



▲子ども達と球根植え



▲種の収穫を待つ晩秋



▲植え替えを待つ小球根鉢



▲殺菌後の小球根の陰干し中



▲植え替え完了の鉢

私が「麻生ヤマユリ植栽普及会」に入会してから、もう3年近くになります。最初の年に植えた球根は、まだ、その鉢のままにしています。また庭の片隅に纏めて育てている小球根鉢も順調に生育しているようなので、そろそろ植え替えにチャレンジしてみよう、と11月下旬の暖かい日に行動を開始しました。今回対象にしたのは、2年前植栽した球根2鉢と小球根から開花した2鉢、それに種から育てて今年茎立ちした3年物の鉢です。

まず、鉢をひっくり返して、球根の根を痛めないように、周りの土を取り払い、水洗いをしました。幸いにも木子もそこそこ付いており、もう一つの鉢の球根は、分球していました。小球根の茎立ちした3年物の鉢からは、100球近い親指大の小球根に生育していて、びっくりしました。根も丈夫そうで将来の開花を期待させるものです。

ベンレート500倍液に1時間ほど浸し殺菌をしてから陰干しを行い、洗浄した鉢に、手順に従って植付けしました。

新しく加わった鉢と合せて10鉢となりました。ちょうど作業中にご近所の方が来られたので、自慢話に花が咲き、一鉢育てていただくことになりました。ヤマユリファンが、少しでも増えたいと嬉しいものです。

ところで、今回の作業で、小球根が100球ばかり手元に残りましたので、当会の植栽地「万福寺おやしろ公園」の球根植栽日に一緒に植栽することになりました。

自宅の庭で、自然と大きく育った小球根ですが、やはり愛おしく嫁入りさせるような気持ちで、大きく開花して欲しいと植栽をしたものです。

私の手元には、今年の春に種を植えたものの、昨年春に種を植え今年芽出したもの、2年物、3年物の球根等年代順に順調に育っています。生育に時間がかかる代物ですが、それだけ楽しみも多く、近くの公園等に移植して、この新百合の地に自生してヤマユリの里が出来るのを夢見ています。皆さん一緒に挑戦してみませんか。

(松田 肇・記)

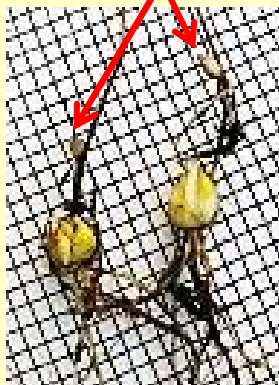
そうなんだ 問答

今回は、秋の植栽時節に合った問答をしてみよう。

◆問：晩秋、球根の植え替え時に「木子（茎から出る上根の地表近くに見える小球根）」を見つけたことがある。どの株にもできるのか、毎年できるのか。

●答：一般に開花期を迎えた株の地表近くの茎にできますが、古株になるとできなくなります。一方、花を付けない茎立ち間もない若株にも、米粒大の木子（写真左）ができるのには驚かされます。植え替え時に丁寧に移植すると、より多く増殖を行うことができるでしょう。

米粒大の木子



▲茎立ちした小球根にできた木子。開花はさらに2年後

大豆大の木子



▲3輪程度の花を付ける球根

（会員消息）

当会員・池田寿郎氏が今年8月12日に逝去されました。植栽活動に精励いただきましたことを感謝いたします。

会員募集中

地域のボランティアのみなさんと一緒に麻生区の花「ヤマユリ」に親しみながら緑地で汗を流しませんか。

定例会議：原則、毎月第2木曜日 午後2時～4時

会 場：交流館 やまゆり

植栽活動：指定の各緑地（月に1回～2回）

年会費：1,200 円

★問合せ・連絡先：当会会長（事務局）貞本 勉

TEL：090-7175-4995

E-mail：tsutomu.sadamoto@nifty.com

行事予定

1月～3月の主な予定

◆1月～3月 植栽地の整地作業（4地域6カ所）

◆1月～3月 定例会会議

（25年度のみ第2水曜日午後午後2時～4時）

◆3月 来期事業計画の修正、年次総会の準備、本年度収支報告の作成

★この広報紙は、区役所のHPからも入手できます。

＜らしのガイド＞ 魅力ある区づくり ＞ 地域課題対応事業
＞ 自然・環境系の事業 ＞ ヤマユリ植栽普及促進事業